

優秀賞

山下 文奈(やました あやな) 南大沢中 2年生

作品名:過去の過ちを繰り返さないために

図書:ある晴れた夏の朝

原爆投下という消えない事実。一瞬でたくさんの人が亡くなり、生き残った人も後遺症で苦しんでいった。私は原爆投下についてどのような意見があるかを知りたくて、今回この本を読んでみたいと思った。肯定派と否定派の両方の意見を聞き、原爆投下について改めて考え、さらに平和について自分ができることについて考えるきっかけになった。

この本は2004年の夏。メイが15歳だった時、スコットとノーマンに誘われてメイは原爆についての公開討論会に参加し、メイを含む否定派の4人と肯定派の4人が4回の討論会で原爆の是非について討論する話だ。

まず肯定派は、戦争を早く終わらせるため、これ以上犠牲者を増やさないために原爆を落としたと述べた。また真珠湾攻撃や南京虐殺に対する報復だったとも発言している。つまり、原爆は悪ではなくて、必要悪だったと主張した。これに対し否定派は、原爆は人体実験だったと述べた。そして、原爆の開発や実験は有色人種の土地ばかりで行われたため、人種差別であったと発言する。つまり、原爆は悪。不必要なものだったと主張した。

このような討論が続く中、第3回の討論会で肯定派のノーマンは、日本人は原爆を肯定していると発言した。広島平和記念公園の慰霊碑にはく安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませぬから>と書かれており、日本人は自分たちが犯した過ちを反省しているとも述べる。つまり、日本人は原爆を肯定していると主張したのである。それに対し第4回の討論会で否定派のメイは、日本語には主語がない文章があるため誤訳されていると述べた。慰霊碑の言葉は、原爆投下は人類の罪だと言っていて、日本人の罪とは言っていない。つまり、日本人は原爆を肯定しているのではなく、これから先、人類はあやまちを犯しませんと伝えているのだと主張した。そして、肯定派のナオミはこの討論会の最後に、前回のメイの主張を聞いて自分の考えに変化があったと発言する。平和を創造するためには、人種差別や偏見をなく

すこと、よその国の言語や文化を理解することが大切である。そして、私たちは原爆の是非を議論する前に、日本への原爆投下は間違いであったということを認めなくてはならないと締めくくった。

私は、原爆に対して否定的な考えを持っていた。なぜなら小学6年の時、修学旅行で長崎に行っているからだ。平和公園や原爆資料館などを見て、実際に被害者の話を聞くという貴重な体験もした。原爆資料館で11時2分で止まった柱時計や、原爆投下の映像なども見た。それらは原爆の悲惨さを強く思い知ることができるものだった。私は被害者のことを考えるととても胸が痛んだ。そして何の罪もない人が一瞬にしてすべてを奪われることはどのような理由があっても絶対にはいけないと思った。この長崎への修学旅行で、改めて原爆はいけないという強い考えを持つようになった。

私はこの本を読むまでは、原爆に対して肯定的な考えがあるということを知らなかった。日本は戦争が激しくなっていく中で、真珠湾攻撃や南京虐殺などをしてきたという過去はある。それはもちろん罪なので、きちんと償わないといけないことは理解できる。その責任は果たすべきだと思う。その部分については肯定派の意見に納得できる。

でもそれを広島や長崎の人々が死んで償うという意見に私は反対だ。最後にナオミが言っていたように肯定派、否定派を話し合う前に日本への原爆投下は間違いだったのである。どんな言い訳があっても原爆投下はいけないことだったと改めて強く思う。

今回この本を読み、原爆投下の事実について改めて考えた。原爆の被害者の高齢化が進み、経験した人が減っていく中で、私たちは原爆投下という事実を次の世代に語り継いでいくことが大切である。そのためにも原爆投下について正しく理解していく必要がある。原爆投下について、肯定的な意見はあるが、それでも原爆投下はいけないことだったと次世代に伝えていきたいと思う。

また、平和な世界にするために、他の国の言葉や文化を理解して認めること、そして差別や偏見をなくしていくことが大事である。その中で私たちができることは、自分とは違ういろいろな考えや生活習慣、言葉などを理解することだと思う。歴史だけでなく今起きていることにも様々な角度から見るように心掛けていきたい。そのような「個人の力」は世界を平和にすることができる大切なパワーだから。